

平成26年度 田村市立船引小学校

# 学校だより No. 9

発行日:平成27年1月9日(金) 発行責任者:校長 富塚忠夫

## 『あったか言葉』のあふれる学校に！

新年明けましておめでとうございます。保護者の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。今年もよろしくお願いいいたします。

冬休み明けの放送朝会で、校長から子どもたちに『あったか言葉』のあふれる船引小学校にしていこう」という話がありました。その話の内容は裏面に掲載しましたのでご覧ください。



最近、子どもたちがよく見るTV番組でも芸能人たちの会話の中に配慮のない言葉を耳にします。また、テレビゲームの中にも、「死ね」「消えろ」など耳を疑うような言葉が飛び交っています。

子どもたちに『チクチク言葉』として示したこれらの言葉は、基本的に相手を攻撃するときに使う言葉で、大なり小なり言葉を発する側に相手を痛めつけようという意志があります。これらの言葉を言われて不愉快に思わない者はいません。大人も子どもも同じです。言われた者は心にダメージを受け、あるときは反発し、さらに強い言葉で反撃しようとし、いじめの道具として使うようになるのです。



言葉遣いは、模倣と繰り返しによって身につけていきます。多くの語彙や表現を吸収していく小学校の時期の大人の教えがとても大切です。そのためには、学校だけでなく、保護者の方々、地域の方々で気をつけ合い、私たち大人が襟を正し、正しい言葉遣いを教えていくことが大切だと考えます。

このことは、思いやりのある人間関係、いじめのない人間関係をつくる上で、とても大切なことだと考えるのです。

この機会に、日常生活の中に『チクチク言葉』がないかどうか、ご家庭でも見直していただきたく思います。そして、「ありがとう！」「がんばっているね！」「大丈夫？」「うれしいな！」「一緒にやろう！」などの『あったか言葉』がいっぱいになるようご協力をお願いいたします。



## 雪かきのご協力お願いいたします。



2月の大雪

道路が凍結したり、積雪のために歩道が狭くなったり、冬期間の通学路は危険な場所が増えます。学校では、通学の仕方について、繰り返し指導し、危険を回避する力を育てたいと考えています。

ご家庭においても、安全な登校の仕方について話し合うとともに、積雪があった場合、児童の通学路のための雪かきのご協力を願っています。自宅前や近所などできる範囲で結構です。

よろしくお願いいたします。

## 校長先生のお話

富塚忠夫

## 1 未（ひつじ）のように仲良く、温かく、やさしく ～友達にやさしい子どもが育つ学校に～

あけましておめでとうございます。よいお正月を迎えることができましたか。今年もよろしくお祈りします。

今年は無（ひつじ）年です。まずはじめに、羊についてお話をします。

羊は群れをなして行動する動物です。羊は、争いごとを好まないようで、仲良し、あたたか、優しいなど安心の気持ちや平和をもたらす縁起のいい動物だと言われています。羊は、家族や友達をとっても大事にして生活する動物なんですね。

お正月に TV で羊牧場の様子が紹介されていました。その牧場には100匹以上の羊がいました。みんなが寄り添っていました。群れていました。仲良く草を食べている羊がいました。お互いの顔や頭を近づけてお話ししているように見える羊もいました。小走りに一緒に駆け回ったり押しくらまんじゅうをしてじゃれ合っているように見える羊たちもいました。その様子は、学校で友達と楽しい生活を送っているみなさんのように見えました。とてもかわいく見えました。

しばらく見ていると、一人ぼっちでいる羊がいないことに気づきました。群れから離れて一人になってしまうのかなと見ていると、別な羊が寄って行くのです。動いていますから一匹になりそうになる羊がいるのですが、必ず別の羊が近寄って行くんです。そして、いつの間に仲間がたくさん集まって来て群れになるんです。また、群れから離れそうになっても、自分から群れの中に戻っていくんです。

この様子を見ながら、校長先生は「羊って、とっても仲良しで友達思いの動物だな。」「一人ぼっちになりそうな友達がいると必ず友達が寄って行って一緒に遊ぼう、一緒に食べようとする優しい動物だな。」また、「自分から、友達になろう、一緒に遊ぼうと仲間の中に入っていき積極的なところもあるし、そういった友達の「いいよ!」とすぐに受け入れる本当に優しい動物だな。」と思いました。

校長先生は、この牧場の羊たちのように、今まで以上に友達にやさしい子どもが育つ船引小学校にしていきたいなと思ったのです。

## 2 「あったか言葉」のあふれる船引小学校にしていこう ～「ちくちく言葉」ゼロの船引小学校に～

人は、生まれながらにして、楽しく幸せな生活をする権利を持っていること、これを「人権」ということ、そして、どんなに偉い人でも、この権利を奪ったり、邪魔をしたりすることはできないことをいろいろな機会にお話してきました。

この人権を大切に生活していこうという気持ちで毎日を生きていく人を「人権意識の高い人」と言います。このことは日本だけでなく、世界中の国々で、私たちは人権意識の高い人間になっていかなければならないと叫ばれているのです。校長先生は、みなさんに「人権意識の高い人」になって欲しいのです。

人は、だれもがかけがえのない存在です。相手が嫌だと思ふことをやったり、傷つけたりすることをやったりしてはいけません。だから、学校生活において、「からかい半分で…」とか、「面白いから…」とか、「遊び半分で…」というのが一番いけないことだ、やってはいけないことだということは何度もお話しているのです。

みなさんは「あったか言葉」を知っていますね。自分が言われて嬉しい言葉、言われた人が嬉しくなる言葉、やさしい言葉のことです。担任の先生からも何度となくお話しいただいている言葉ですね。

「ありがとう!」「大丈夫?」「どうしたの?」「ごめんね。」

「すごいね!」「がんばってるね!」「一緒に遊ぼう!」「一緒に帰ろう!」「なかよくしよう!」……などは、言われるととっても嬉しい気持ちになる言葉です。

校長先生は、この「あったか言葉」がたくさん聞こえる人権意識の高い子どもでいっぱい为学校にしたいと思っています。

「あったか言葉」とは反対に、言われて嫌な気持ちになる言葉、暴力的な言葉、人を傷つける言葉、不愉快な言葉があります。「バカ」「まぬけ」「死ね」「消えろ」「うざい」「くそ」「きもい」「くさい」「最悪」

「最低」「地獄に落ちろ」「こっちへ来るな」「あっちへ行け」「そんなことも知らないのバカじゃない」…などです。これらの言葉を「ちくちく言葉」と言います。「ちくちく言葉」は人権意識の低い人が使う言葉で、悪い言葉です。使ってはいけない言葉です。

船引小学校を「ちくちく言葉」を使う子どものいない学校にしていかなければなりません。「ちくちく言葉」を使った友達がいたら、その場で、「その言葉は使ってはいけないんだよ」ときっぱりと行ってください。聞こえないふりをする。注意しないで黙っている。これが一番いけないことです。みなさんは、悪いことは悪い、ダメなことはダメとはっきり言える正義感あふれる人にならなければならないんですね。

今年、『「ちくちく言葉」ゼロ』を合い言葉にして、「あったか言葉」であふれる船引小学校にしていきましょう。めざすは、「あったか言葉」のあふれる船引小学校です。今日から、今から、みんなでがんばりましょう。

このあと、各学級でしっかりと話し合いをしてください。先生方よろしくお祈りします。以上で校長先生のお話を終わります。